

診断士会 News

No.2019-09

2019年11月15・16日

鳥取県コンクリート診断士会

〒682-0025 倉吉市八屋 354-1

☎0858-26-2411 Fax0858-26-5537

URL⇒<http://www.tottori-acc.com/>

JCD(日本コンクリート診断士会)2019年次発表会・現場見学会参加

- ◆開催日時 : 2019年11月15(金)～16(土)日
- ◆場 所 : 高知県高知市本町_高知市内
- ◆行 事 : JCD2019年次発表会及び現場見学会
- ◆参加者数 : 全国地区診断士会会員及び関係者68名+法人会員4名

11月15日(金)【年次発表会】【第3回保有技術発表】【第7回業務体験発表】

AM10:30より、高知市内の高知建設会館4F会議室で年次発表会が開催された。年次発表会は、「第3回保有技術発表」と「第7回業務体験発表」に分かれて実施され、法人会員及び全国地区診断士会会員から、両発表含めて合計13編が発表された。

鳥取県コンクリート診断士会からは西谷技術コンサルタント所属の「前田 康弘」会員が、業務体験発表において“塩害地域におけるプレテンション方式PC床版橋の変状事例”と題して発表した。発表内容は、調査結果からPC鋼材の破断が確認されたことから炭素繊維プレートで補強した内容であったが、質疑応答で、炭素繊維プレートの接着についての質問があった。

年次発表会終了後、会場を移して交流会が開催された。発表内容及び各地区診断士会の活動内容等について、活発な意見交換が実施された。なお、年次発表会の「報告集」は、JCD(日本コンクリート診断士会)のHPに取められるので興味のある方は参照して頂きたい。



保有技術発表状況



前田氏 業務体験発表状況



前田氏 発表状況

11月16日(土)【現場見学会】

年次発表会翌日に、①浦戸大橋 PC箱桁内部、②南国市 掩体壕、③高知市旭浄水場 の現場見学会が実施された。①浦戸大橋は昭和47年(1972)に完成した橋梁で、橋長915.6mの16径間のPCコンクリート橋である。その最も大きな特徴は、最大支間長230mの径間は支間中央に有ヒンジを持つラーメン橋であり、完成当時は、日本一の支間長であったことである。建設は当時の日本道路公団であるが、現在は高知県に移管され、将来危惧されている“南海トラフ地震”に備えて耐震補強工事が実施されている。

業務体験発表においても、高知県職員の「宮地稚菜」氏がP2橋脚の耐震補強工事について発表された。

当日は、休日であるにもかかわらず高知県職員 4 名の方が随行して頂き、PC 箱桁内を案内して頂いた。

②南国市 掩体壕（えんたいごう）とは、戦闘機を敵の攻撃から守るための格納庫である。一般にはコンクリート製であるが、当時は・木や竹・土で作られたものもあったようである。現在はコンクリート製の掩体壕 7 基が残っているとのことであった。現在の高知龍馬空港南西位置に近接し、戦争の悲惨さを無言で語りかけているようにも思われた。

③高知市旭浄水場は、大正 14 年（1925）に高知市初の浄水場として建設され、戦災や南海大地震にも耐え、幾度の更新工事を経て現在も運用されている施設である。同浄水場は、2008 年土木学会選奨土木遺産に選奨されている。選奨理由は、「ルネッサンス様式のレンガ造りの送水所や事務所棟、計量所などが集約した形で残されている、全国的にも貴重な水道施設群」となっている。レンガ造りの美しい浄水場であった。浄水場職員 5 名の方に細かく説明して頂いた。



浦戸大橋 PC 箱桁内部



掩体壕前の集合写真



旭浄水場正門前の集合写真

以上